

金魚の糞 XT2AEF

東條純一 JH3AEF

要旨

今朝XT2から開空着、遅刻しましたが今朝から平常の生活を始めています。
熱射にも負けず、お腹こわしませず、マラリアにもかからず(これは未だ予防服用は続きますが)先ずは普段と変わらない感覚です。ご安心ください。
まあ大変な国でした。到着した夜には軍内部で紛争がおき、夜間街中で銃撃戦があり夜間外出禁止令が出ていたとか。我々は花火やお祭りか?ですから平和ボケも良いところです。
大統領が首相か判りませんが偉そうな人物が延々とTV演説をして解決はしたものの、我々の間では直ちに帰国すべきかなどの話も出ました。そんな馬鹿など思いながらも翌日、街が何事も無かったように平常どう動き出しほっとしました。
その次は暑さ、先ず太陽がかけるとはありません。日中の日向は45度前後、ANT作業などは15分も続けると口の中がカラカラになりしゃべれなくなります。タワー等炎天下にある金属は素手ではとても熱くて触れません。
水は各自自分の分を確保。水道水は飲めません。また、蛇口をひねっても勢い良くは出てくれません。
最大の難関は停電です。お構い無しにプツンと切れます。
24日16:48 20:20 25日06:28 08:55, 09:40 09:45, 22:58 26日02:25 26日06:02 13:30, 15:48 18:15

前編

確かあれは大阪国際交流会館ラジオクラブJ13ZAGの新年会の時だと記憶します。まことに申し訳ないことに、私は例によって大遅刻での出席でした。会の進行がどのようになっていたのかも把握できない雰囲気の中、JA3VWT中野幸紀先生のお話の後半の部分を拝聴しました。先生を中心に大学院の方で昨年度より活動を開始した西アフリカ電波利用促進国際協力センター(CRIOR)が、西アフリカの発展途上国ブルキナファソで先方の大学と協力して無線LANの構築を目指して活動を開始している。昨年は事前調査年、今年は第一年度の活動に入るとのお話でした。
何よ!私の関心事はその無線LANに何とアマチュア無線のV,UHF帯を利用しようとしておられることでした。となると、ブルキナファソ(XT2)の政府機関が発行するアマ無線の従事者免許、無線局免許も当然のことながら必要となります。そうたやすいことではなさそうに思えるが。会の終了後、先生にそっとお声がけいした。すると答えは単純明快。大丈夫、大丈夫。次に、活動は大学としての事業だけれど、一般人も参加させてもらえるのですか、私は無線LANの構築のことなど全く解らないのですが。この問いかけに対しても、どうぞ、どうぞ。これまた歯切れが良かった。
二月の例会の頃に再び確認。何も解らん人間が大学の研究活動班にくっついていだけになります。本当に金魚の糞ですよ。いやいやアマ無線もやるんですから、と、何の抵抗もない答えであった。

よっしゃ、それなら私は皆さんが活動しておられるあいだ、持って行ったHFのRigの番をしていたら良いのだ。そーかそーか。これは面白いことになりそうや。三月の例会のときには周りもすっかりそのつもりになっていただいて何だか壮行会のような雰囲気包まれていた。

この間しか送電されませんでした。こちらは運用可能な状態でも3日間で37時間しか電源がありませんでした。コンタクト中でも突然プツンです。

Rig.はIC706+TOKYOhp HL550FX500W+ MINIMULTI HX52A IV 40m IV 75m + アルインコDM330MV のline upで出ました。従免は日本国内の従免に相当の資格で30日間有効。お世話になった方が通信関係の仕事をなさっていて、現用していないステーションの17~8cm角の細身のタワー12mHを提供してくださいました。ステーが沢山張られていてビームANTの上架、回転には不向き、あらぬ方向へ固定しかできませんでした。XT2AEFは18,21,24MHz PHONEで570局少々(QSO)をはたしました。JAとは5局できたと思っています。JAの声が聞えると、つい喉がつかまって声が震え、涙目になりました。めめちくいていやですね。逆にSTANBY EUは気持ち良かったHi WPXはpediには不向きでした。震災のことも事前に公表という手段はあえてとっていませんでしたが、reportをみてDaily DxのW3URのBernieがreportを求めてきていますので各人の情報を送る予定です。DxccのDeskにmlicenseのcopyを送り、contactがcountされるよう手続きをとります。QSLカードはこれから準備します。出来るだけ大判振る舞いで発行したいと考えています。

中野教授の目的は途上国の更に地方に分け入ったところ、即ち、商業ベースから見放された地域の人達にも、我々が享受するインターネットを、回線料などに縛られず利用してもらうということだそうぞ。即ちアマ無線LANなのだ。

とにかくXT2でアマ無線の免許を取得せねば仕事は始まらない。そのようなことで、すでに昨年からの取得に向けての行動を続けてこられていた。そこに浮かび上がってきたのが設立間もないXT2のアマ無線連盟の会長Hugolinn Pooda氏XT2HBである。彼には今回、あらゆる面でお世話になりっぱなしであったが、不思議なことに、彼は我々のXT2滞在中は期間を通して国外におられ、全くお顔を拝謁したことはない。

次々に押し寄せる難題。

先ず最初はVISAの問題であった。出発に合わせて確実にVISAは取得できるはずであった。そこへ東北関東大震災、それに続いて福島原発事故。確かに悪夢の連続ではあるが、こともあろうにXT2の東京大使館は受け付けた書類はほったらかして本国にさっさと引き上げてしまった。

そんな馬鹿な、そんなことされたら我々の入国はどうなるのだ。それでは中野先生のとられた手段はパリにあるXT2大使館に電話で直談判、我々がパリに着く午後六時を過ぎる超時間外に特別にXT2入国VISAを発行していただくという、我々からみると全く不可能としか思えない快挙をスナリとこなしてしまわれたのだ。さすがに在欧長期、しかも彼の地で要職をこなしてこられた氏の手腕の一部垣間見た一瞬であった。これならどこまでも金魚の糞で安泰、安泰。

今までに無い大荷物。

ON AIR出来るならHF機にリエアーAMP、ゲインのあるANT、40mや75mにも出るのであれば其々に使用するワイヤー類、アース棒、単線、安定化電源、同軸ケーブル5D2V 10mx2, 20mx1, 30mx1、キーヤーにテーブルタップ類、テスターにANTアナライザー、コネクター類、FUSE類、雑索類、工具類、懐中電灯、その他諸々。

以上は普段の旅行には全く縁のないもの。衣類などの生活用品はほんの申し訳程度にとどめることになってしまった。しかし、暑い国で野野外活動、比較的蚊の発生が少ない乾期とはいえ、防蚊対策として長袖の衣類だけは省くことはできない。2006 SEAN ET OSAKA ICOMとロゴのプリントされた長袖Tシャツは実に有用であった。電池式の長時間携帯蚊取り 除虫菊の渦巻き蚊取り先忘れず携えた。特に電池式のほうは現地人にはもの珍しらしく、帰途、はずし忘れて腰にぶらさげたまま出国手続きをしていたら、回りの職員が珍しそうに人垣を作って見入っていた。Hi, mosquito killer, no problem. 興味があるのかHowMuch? ときた。そんなのを忘れた、適当に3\$,、SWを切ってポケットにポイ。駄目といわなかった。RigはIC 706だから大した大きさではないが、リニアが心配であった。それでも今回持参したTHPの最新機種HL 550 FX 500 W OUTは外函をはずし内函だけにすれば大き目のスーツケースに余裕がおさまってくれた。重量9Kg。航空会社AFの規定では携行荷物は各23Kgまで、三辺の総和が158cmまでとの制限があった。二つのスーツケースは内空に未だ余裕があったが重量では測ったように制限ぎりぎりに仕上がった。それでも空港のカウンターでクレームが出たときのために、10mの同軸を外のポケットに入れておき、いつでも機内持ち込みに変更できるように用意はしておいた。問題はANTである。ZAG皆様のお勧めもありHEX BEAMのポータブル版を取り急ぎ注文したが、製造中止。急遽、数社のメー

カーをあたってみた。結局、多バンドのをのせられ比較的小振りなものがMINIMULTI ANTでみつかった。HX 52A 5BAND 2ele x 2 Phased array ANTである。メーカーに交渉して上の基準内に収まるように梱包も小さくしてもらった。性能について社長曰く大好評と。自社の製品を悪く言う社長もなかるが、入荷後直ちに組み上げて仮設してみた。組み上げはいたって簡単。アナライザーによるスペックも申し分ない。材質も加工も悪くない。それならと運用してみるに、私が今集中している2m bandでは現用3ele Step IRに大きな遜色は感じなかった。

いよいよ空港へ。三つ目の荷物になるこのANTだけは別料金にならざるを得ないがそれより先securityで引っかからないかが心配であった。私の前にいた外人はことあるごとに木刀を丸出しのまま手荷物で預けようとして引っかかった。さて私の番、長細いこの函なんですか。」その場の責任者風の紳士が問いかけた。「通信関係のANTです」長いANTですな、HF用ですか」良くご存知で」こんなところで駄目と言われたらもともこない、そこで貴重品袋から英訳された従免を出し示して「決して怪しいものではありません」さらさらと目をといた責任者風曰く「これはこれは一級の大先輩ですか」「どちらまで」「一寸西アフリカの方へ」私、二アマで今更勉強もね、、、」といった具合で握手までしてくれno problem。ちなみにXT2までのANTの別料金は¥18,000.- でした。



道端のマンゴウ売りのおばさん



道端の自転車修理屋

XT2入りは果たしたが。便待ちでCDG空港近くのホテルで一泊、翌朝の便でXT2に向かう。地中海を一跨ぎ、7Xの西部をまっすく南下する。トランスアトラス山脈を越えて南側は赤茶けた砂の大地、数年前のモロッコ旅行を思い出す。機は途中5U NIGERのNiameyに寄港した。何でもこの国は資源国でXT2とは大違い。乗客の7/8割が降りていった。今まで気がつかなかったが、その中に多くの明らかに日本人ではないアジア人が混じっていた。機は再び飛び上がり一時間弱の飛行の後、ようやくXT2のワガドグ空港に着陸した。二日にわたる17時間あまりの長旅である。ところが、関空でも、パリCDG空港でも問題にならなかったANTの細長い函が遂にXT2入国のsecurityで引っかかった。真っ黒の顔をして目だけぎらぎら光らせた軍服の係官が私を呼び止めた。「それ何」通信用のANTです」手振りで開けという。中野先生が横からずっと飛び出してきて伝言でペラペラ。どたんに行け、行けの手振り。ああ神様、中野先生様。空港の建屋も屋内は至って薄暗くて木造とも、プレハブとも、、、われわれのイメージする首都の空港とは趣をことにする。正面を出たら即地道。砂埃と言おうか土ぼこりと言おうか、赤茶けた粉塵が足元から舞い上がる。空港から市街地に通じる道路は車道だけはさすがに舗装されているが、それは道路の中央よりだけ、両脇には広く地道が残されていた。

とにかくホテルに落ち着いたものの、ベッドからはイモリが飛び出すは、シャワーの湯は出ないは、クーラー、、、まあoperationが始まったら寝てる暇もなからう、これでも良いか。

夕食は中野先生のご案内で日本人経営の居酒屋風レストランに。良く冷えた現地のビールをいただき、長時間の航空機でのストレスも少しづつ失せ始めた頃、突然停電が。我々が手首や首から下げている電池式蚊取りのランプだけが闇の中をユラユラして、何か異様な光景である。現地の人達は一切そのようなものはしていない。蚊に刺されないのだろうか。しばらくするとパット電灯はともったが自家発電が動き始めたのだぞぞぞ。

平和ボケの日本人。食事も進み午後の9時をまわった頃、交通事故でもない、花火の音でもない、割合に澄んだ音だが腹にこたえるような爆発音のようなものを聞いた。店の主人曰く「何か大層なことにならねばよいが、、、」ホテルに帰ると玄関にあるテレビに何人かの人が見入っている。明らかに政府の要人と思しき人物がながながと演説をしている。とにかく部屋に入って水のシャワーを浴びるとベッドの上でパターン、キュー。イモリ先、効きの悪いクーラーも問題ではなかった。

しかし、往来から聞える車の音が何と無くギスギスし、夜半を過ぎても移動しているように聞える爆竹音を何度も夢見心地で聞いたような気がする。

朝、私は普段のように六時に目が覚めた。太陽は未だ昇っていないが外は明るく、間もなくジリジリ照りつける暑い一日が始まる気配である。ホテルのフロントマンも特に変わった様子も無く挨拶をするので、昨夜の爆竹様の音のことなどすっかり忘れて約一時間ほどの散歩に出かけた。手持ち時間の約半分を往路に、残り半分を帰路にという配分で歩くのが私流の旅行先での散歩のスタイルである。

早朝でもあり、往来の車も、その脇を走る地道の自転車も、バイクもまばらである。この国ではバイクより自転車の数が圧倒的に多い。道路の両脇には所々空き地を残しながら平屋の建物が続くが、築年数が永いのかござれいに見えるものはほとんどない。商うものは、家具であったり古い車からはずしたエンジンであったり衣類であったり薬屋であったり食堂であったり様々であるが、何を商っているのか業種を特定することの出来ない建物が非常に多く感じられた。



水がめを運ぶ若者

道端では自転車の修理屋がやたら目に付いた。修理屋といっても板にチェーンの切れ端をぶらさげたりチューブのゴムをぶらさげたりしたものを看板に商いをしている。修理するのもまた道端の土の上である。それでも利用者はそこそこあるようで結構繁盛していた。板を打ち付けて作った粗末なテーブルと長いすを出して朝食を食わせる店、何を食べさせているのかと見ると大きなビニール袋に入れて持ってきたリゾット風の飯をボールに入れて食わせている。道端で土壺から水を売る者、お茶らしきものをを飲ませるテーブル、小さいマンゴウをテーブルに広げて売っているおばさん、写真を撮らせてもらおうとカメラを見せて話しかけるとにっこり笑ってフン、フン、だがカメラをかまえると店をほったらかして小走りに遠のいた。いずれの国の朝市も国柄がうかがえてほほえましい。



路上で遊ぶ子等

帰路につく頃には自転車の数は急激に増え通勤時間帯に入ったのであろう。その中をバイクがすい抜けていく姿が印象的であった。しかし、バイクがあふれる東南アジアの国々に比べると、その数は圧倒的に少なかった。ただ感心したことこの国の人々は、信号を良く守る。車であれ、歩行者であれ、じっと気長に待てる人達である。斜めはすの信号がオレンジにかわったらもう飛び出していたり赤でも車が来なければ悠々と渡る不心得物は全く見当たらない。このことは、この国の人々が如何にのんびりした環境で生活しているかということの現れなのであろう。

今日の日課は午前が日本大使館の表敬訪問と事業説明、午後からはいよいよシャックの建設である。

運転手の説明によると昨夜の爆発音や爆竹のような音は、やはり銃撃戦の音であった。何でも、軍部の不満分子が武器庫を襲撃、武器の略奪をする事件が起こり、その收拾のための銃撃戦が市中心部であったという。昨夜はずっと外出禁止令が出ていたとのことである。ただ事件は完全に解決したため、早朝には外出禁止令も解かれ、全てが正常に戻っているとのことであった。しかし、大使館を訪問した際、ホテルの移転の提案を受けた。現在のホテルから、各国の大使館や官庁の集中するsecurityが厳重で、日本大使館にも近い地区にあるホテルに移転した方が安全ではないかということで、早速に指示にしたがった。

他にも、交流活動をする予定であった首都にあるワガドゥグ大学にも不穏な空気があり、学生の学内立ち入りは少し以前から禁止となっている。そのため、本活動の主目的である日ブの大学交流事業はキャンセルとなってしまった。

あれや、これやの中、プール付のフランス風レストラン（聞こえは良いが決しておしゃれで清潔なところではない）での昼食の際、中野先生はこのまま抗争が静まらなければ、撤退すべきではないか、「皆さんどう思う?」とややblueな表情をみせておられた。責任者としては当然のお考えと尊敬したが、私は一人でも予定の日までは居残りますとの意見をのべさせていただいた。

ホテルの引越してシャックの設営に取り掛かったのは午後もないが過ぎてからになってしまった。

< 続く >

リオ・デジャネイロ (PY) とイグアスの滝 (PY・LU) 旅行記 JA 3IVU 北井 十生

2011年3月10日からリオ・デジャネイロ (PY) とイグアスの滝へ行ってきました。

昨年に計画をして行けなかった「イグアスの滝」とこの時期に開催される「リオのカーニバル」へ。南米は2008年の「ペルー」以来の旅となりました。出発はまたまた「成田」です。どうして関空から出発出来ないのか???

17時10分発の成田 (NRT) CO 6便に乗るため伊丹 (TM) から08時25分発のJL3002で成田 (NRT) へ。成田 (NRT) には09時35分に着き、集合時間まで時間があったので成田山新勝寺に参拝に行くことにしました。成田山さんでこれから先の長旅を祈願しました。荷物は事前に家から成田空港へ送ってあった。今度のツアーは44人で2つのグループになっている。すぐにチェックインをしてゲートへ。

成田 (NRT) からUSAのヒューストン (IAH) まで約12時間のフライト。ヒューストン (IAH) に14時まえ到着したがリオ・デジャネイロ (GIG) 行きは21時05分。さあこれから7時間ほどどうして時間をつぶそう。そのためにパソコンにDVDを見られるようにソフトを入れ録画しているDVDを何枚か持って機内に持ち込んだ。B777には機内電源が小容量の電気機器なら使用できる。また、最近では待合場所には電源とW-LANが使用できるのでその場所をさがしてターミナル内をウロウロして見つけました。何人か人が使っていたので空き待ってすぐ接続しました。ネット接続できました。

7時間待ってヒューストン (IAH) 発21時05分のCO 129便でリオ・デジャネイロ (GIG) へ。深夜フライトで地図を見ているとキューバを避けるようにアンティル諸島の上空からベネズエラ、ブラジルの上空から首都のブラジリアの上空を飛び、やっとのことでリオ・デジャネイロ (GIG) 空港に3月11日の10時10分 (JST) 22時10分 (JST) に到着。ブラジルはビザが必要でした。

空港に到着し、入国審査で並んでいるとグループのある人が日本で大きな地震があったとの情報が入ったと話していました。その方は茨城県の方で震源地から離れてはいるが被害があったとのこと。直ぐにバスで昼食会場 (イパネマ海岸の近くイマネマと言えば「イパネマの娘」という有名な曲があった) へ。レストランへ入るとテレビがCNNを放送している。画面は津

波が押し寄せているが画像を繰り返して放送している。参加者は食事もよそに画面に食い入っていた。とにかくすごい画面で。携帯電話で日本に連絡を取る人があった。ホテルへ着き、テレビを見るとCNNもBBCもずっと1日中このニュースばかりを放送している。

次の日はリオのコロコバード丘の上に「キリスト像」へはアップ式登山電車で20分ほど終点からエレベーターでもう一つ上へでるとガスがかかっていて顔と手が見えない。また、眼下のリオ市内もまったく見えなかった。次ぎに世界最大と言われる「マラカナンサッカースタジアム」へ。中には入らなかったが大きな球技場だ。

それからメトロポリタン大聖堂へ。近代的な建物でおわんを伏せたような形です。昼食後、今夜の「リオのカーニバル」に備え、ホテルで一休みし、夕食後「リオのカーニバル」の会場であるサンボドロムへ。長さ約700m、幅約20mの両側は甲子園球場のスタンドのように階段上の観覧席があり全部で何席あるのかわからないが約7万人ぐらいらしい。会場は照明でとても明るい。今夜は、「リオのカーニバル」の本選で入賞した1位から6位までのチームが参加する「チャンピオンパレード」で6位から順に出場する。1位が出てくるのは朝の4時とか5時になるらしい。スタートは21時だがなかなか始まらない。これは毎年このことで1時間や2時間遅れるのは当たり前のこと。花火が上がればよいよスタート 私たちの観覧席はコースの最後の方にあるので始まって30~40分しないと先頭の姿が見えない。やっと6位のチームが見えてきた。強烈なサンバの「リズム」きれいな山車、きれいな衣装で1チーム2000人から3000人ぐらいいりて山車が1チーム10台ほどあります。朝の5時になったとき1位のチームが登場したが帰る時間となり後ろ髪を引かれるようにホテルに戻った。ホテル到着は朝6時。朝食はできるが眠気のため昼までお休み。12時になり昼食を取った。イグアス行きの飛行機はリオ発23時18分なので十分時間がある。あとリオでの観光「ポン・デ・アスカル」(砂糖パンの山) へ。ここへはロープウェイを二つ乗り継いで岩山の上へ。リオ市内がよく眺望できる場所として有名なところで世界三大美港であるリオの港がきれいに見える。



「リオのカーニバル」

それからゆっくり夕食 (日本食) を食べ、リオ空港へフライト約 2 時間でブラジルのイグアス空港へ。ホテルへは 2 時半ころ到着した。次は世界三大瀑布の一つのイグアスの滝へ。まずはアルゼンチン側から見るので国境を超える。トロコ列車に乗り、滝の上の遊歩道を歩くこと約 15 分「悪魔ののど笛」の上に来た。ものすごい水の量が落ちていく。それが霧というよ! 雨になって観光客の方へ降ってくる。全員ずぶ濡れになりながら滝を眺めた。

その後、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイの 3 国国の国境地帯 (二つの川の合流点) を見てまた、ブラジルに出国昼食はイグアスの滝のブラジル側にあり、滝をみながら食事するが滝の音がすごい。国境でのお話。ブラジルとアルゼンチンの間は出入国管理があるがブラジルとパラグアイの間には何もない。フリーパスである。アルゼンチンとパラグアイの間は通過していないのでわかりません。

午後は、ブラジル側へ、滝は幅 4km あり、下から見るのでいくつも滝があり、三段になっているところも、至るところで水が落ちている。滝の数は世界一だぞ。落ちている先まで遊歩道があり、これまたずぶ濡れになる。防水型のデジカメは購入して持っていった。その後、いよいよ滝に突くボートツアーへ。全員ライフボートを着けた。ゴムボートに船外機をつけたもので何回も滝に突く。その水量たるものバケツをひっくり返したような量ではない。息が出来ないくらいすごい量だ。もちろん全身ずぶ濡れ。水着でボートに乗るのが一番よい。日本では絶対体験できない。行かれた方は是非体験してください。

その日の夕食時に歯が壊れてしまい噛めなくなってしまった。これで日本に帰って歯医者に行くまで食べられない。なんとか柔らかいもの探しをスープで喉を通して食べるしかない。困った。帰国したら体重が 3kg 減った。こんなところでカップラーメンが役にたった。



「イグアスの滝」(ブラジル側)

ブラジルとパラグアイの間にある「イタイプーダム」へ。ここは水力発電所としては世界第 2 位 (1 位は中国の三峡ダム 2200 万 kWh) で総発電量 1400 万 kWh (70 万 kWh の発電機が 20 機。ブラジル (60Hz) とパラグアイ (50Hz) 各 10 機づつ) とすごい。ダムの堰堤も高さ 196m で長さ 7.7km (ダムの型式はコンクリート重力式とロックフィル式などの複合) で上にある湖は琵琶湖の 2 倍もあるらしい。

パラグアイでは電気が余るのでブラジルに売電していること。(もちろん周波数変換をして) 特にこの時期、このような発電所が日本にもほしい。そうしたら関東方面での計画停電が助かるかもしれない。

そうこうと旅をしているうちにいよいよ帰国する日となった。イグアスの空港へ。ここからサンパウロ、リオ、ヒューストン、成田、伊丹と 5 回も飛行機に乗らなければならない。合計で何時間飛行機に乗るのだろう。何回機内食を食べることになるのだろう。計算したら疲れるだけなのでやめときます。ちなみに搭乗計算すると 1 時間 30 分 + 1 時間 5 分 + 10 時間 20 分 + 1 時間 50 分 + 1 時間 20 分です。(待ち時間を含みません。) 成田には無事着陸できのだろうか。

機中泊を 2 回し、日本に近づくといつもは仙台沖から銚子沖へ出て成田へのコースが青森上空から秋田沖上空の日本海へ出た。そして酒田上空から銚子沖へとまるで「福島原発」を避けるようにしてやっと成田へ到着。日本を脱出する外国人でターミナルは人がいっぱい。成田から伊丹まで順調に飛行し伊丹に到着。外へ出ると雪が舞っていた。地球の裏側から帰ってくると寒い。

終わりに無線の話

無線のアンテナは放送局用と携帯電話等のぐらいいしか見かけなかった。携帯電話は幹線道路、市内では使用できた。

ホテルのテレビは衛星と思われるが外国の放送は CNN、BBC があつた。

今までは、日本のニュースを見ることはほとんどなかったが今回は 24 時間ずっと日本のニュースばかり「菅総理」枝野官房長官」が出ていた。NHK や民放が取材した津波の様子が CNN、BBC で流れている。CNN は盛んに「福島原発」を取り上げ、放射能の影響について報道している。日本ではこのニュースはまだ報道されていないらしい。



2011 年 3 月 17 日の CO 7 便
ヒューストンから成田への飛行コース